

# 常なる磐

つねなる いわ season II

令和 4年 1月28日(金)

その2

## ◇ 学校【沿革史】を 紐解いて⑤ 開校から昭和35年まで



「開校から昭和35年まで」。年数は60年。  
左の表から分かるように、60年の間に6度の改称を経て、現校名「岡崎市立常磐東小学校」に至る。

本校児童数のMAXは、大正3年度の161名。  
常磐尋常小(現常磐小)の校舎移築とともに「米河内」が常磐尋常小に組み入れられる前年だ。戦後のベビーブームで昭和30年初中期の児童数がこれに迫る。

その後は、昭和62年の校舎新築移転に伴う学区再編(「米河内」の復帰)まで減少の一途をたどっていく。

この最大児童数の時の学級数が3学級。少なく思えるが、おそらく学校制度の関係だと思われる。

修了年齢	明治33年	明治40年	昭和16年	昭和22年
	小学校令	改正	国民学校令	学制改革
7歳	尋常小1年	尋常小1年	初等科1年	小1年
8歳	尋常小2年	尋常小2年	初等科2年	小2年
9歳	尋常小3年	尋常小3年	初等科3年	小3年
10歳	尋常小4年	尋常小4年	初等科4年	小4年
11歳	高等小1年	尋常小5年	初等科5年	小5年
12歳	高等小2年	尋常小6年	初等科6年	小6年
13歳	高等小3年	高等小1年	高等科1年	中1年
14歳	高等小4年	高等小2年	高等科2年	中2年
15歳	-	-	-	中3年

※赤枠□は義務教育期間 □は小学校に相当。  
明治40年の尋常小学校令改正で6学年となる。  
学年区分なら6学級のところ、児童数の関係で、当時も「複式学級」だったと考えられる。

昭和22年の学制改革以降もこの状況は続き、27年より、単学級となった。しかし、児童数の減少により、43年から再び複式へ。単学級の復活は、学区再編まで待たねばならなくなる。





👉【沿革史】  
その二  
S36~S53  
(18年間)



【沿革史】👉  
その一  
M25 ~  
S35  
(60年間+α)

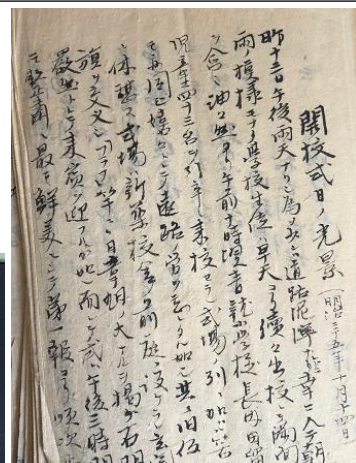


「その一」と「その二」。2冊の【沿革史】を比べてみる。※表装は同時期に作ったと思われる。

- ①【開き方】【綴じ方】
- ②【厚さ】
- ③【紙質】
- ④【文字】

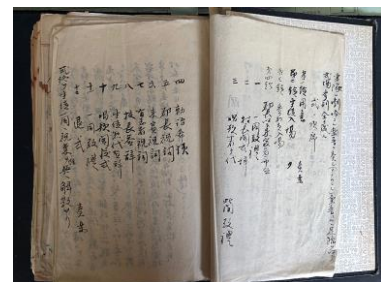
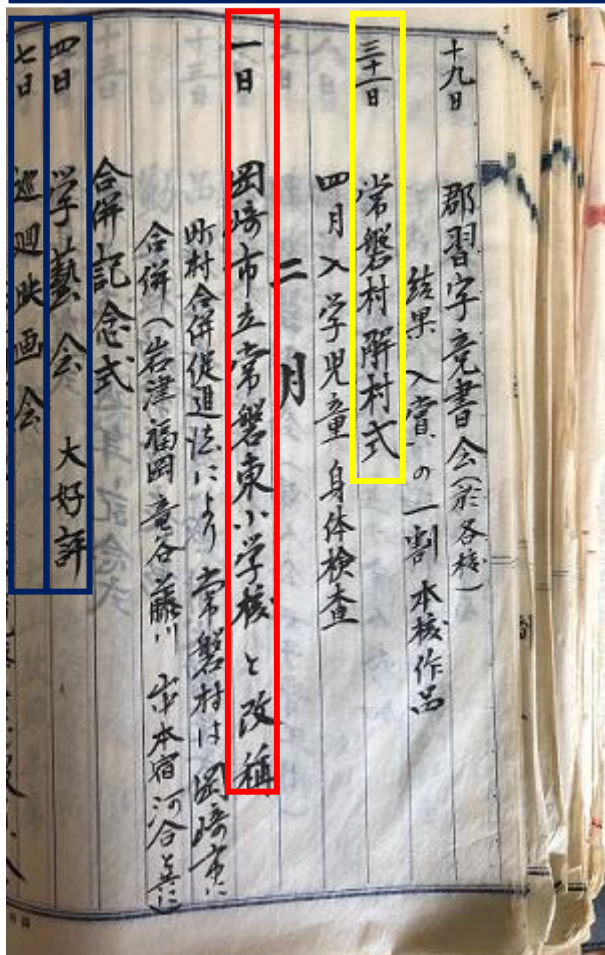
- ・正式には「その一」が正しいだろう。国語の教科書もこの形。
- ・書道で使用する半紙よりも薄いのではないと思われる用紙を使用しているのが「その一」。二つ折りにした裏面の文字が透けて見える。
- ・「行書」をさらに崩した「草書」の頁がある。さすがに難読&難解。👉

【鼎(かなえ)尋常小学校】としての開校が明治34年であるのに対し、明治25年から記録が残るのは、3校統合前の福田尋常小学校の【沿革史】が合わせて綴じられているためである。何と、1800年代の記録である。



記:明治35年10月14日

昭和30年1月と2月の記録



👉

旧字の使用はあるが、これなら読める。

額田郡常磐村の岡崎市への編入(※同時に岩津・福岡・竜谷・藤川・山中・本宿・河合と共にの記載有)により、校名が現在の呼称となったことが分かる記録である。この頃の巡回映画は「月1」ペース。テレビ普及前、学校の楽しい行事。

右は、昭和33年6月の記録を抜粋。【農繁休暇 三日間】とある。現在は、学区にほとんど見かけない「田んぼ」。昔は「棚田」が方々にあったと地域の方から聞いたことがあるが、その話を裏付ける記録である。

